

第3回応用システムバイオロジー研究会 開催報告書

2011年6月27日(月)に九州大学箱崎キャンパスにて、第3回応用システムバイオロジー研究会を、“ネットワーク・パスウェイ解析と未来医療・創薬”をテーマに開催した。

細胞内の様々な相互作用を明らかにするネットワーク（パスウェイ）解析研究は、システム生物学における1つの重要な分野であると同時に、創薬支援や副作用予測などの医療分野への応用が期待されている。そこで本研究会では、医療分野や創薬への応用までを視野に入れ、以下7件の講演をネットワーク解析の第一人者の先生方に行っていた。

1. 久原 哲（九州大学大学院・システム生命科学府）
「ネットワーク解析とバイオロジー」
2. 金久 實（京都大学・化学研究所/東京大学・医科学研究所）
「疾患・医薬品のネットワーク解析」
3. 菅野 純（国立医薬品食品衛生研究所・安全性生物試験研究センター）
「Percellome Toxicogenomics Project の進捗と Chemical Biology としての毒性学」
4. 岡本 正宏（九州大学大学院・システム生命科学府）
「血中アミノ酸制御ネットワークを用いて未病を予知する?!」
5. 相崎 健一（国立医薬品食品衛生研究所・安全性生物試験研究センター）
「Percellome Project における Bioinformatics の進展」
6. 萩島 創一（東京医科歯科大学・難治疾患研究所）
「先制医療のためのバイオマーカーのシステム生物学的アプローチによる探索」
7. ポリュリャーフ・ナターリア（Sony Computer Science Laboratories Inc.）
「時系列データから遺伝子クラスタリングやネットワーク推定」

13時から18時半までの参加者数は述べ60名を超えるほどの盛況ぶりとなった。また、参加者の9割近くが学生であり、学部も農学・工学・理学と多岐に渡っていた。午後6時の終了予定時間を30分超過する程の質疑応答が行われ、活発な意見交換が行われた。終了後は会場近辺で懇親会を行い、参加者・講演者との交流を深めることができた。